

逗子ロータリークラブ Weekly Report



第2725回例会

2018-2019 No.10 2018年9月13日



インスピレーションになるう

E-mail: zushirc@sage.ocn.ne.jp

Website: <http://www.zushi-rc.com/>

例会日

第1・2・4 木曜日 12:30

第3 木曜日 18:30

第5 木曜日 18:00

例会場:「カンティーナ」

逗子市新宿 1-3-15

TEL: 046-870-6440

事務所: 逗子市桜山 6-3-29

TEL&FAX: 046-873-0226

会長◆山本 由夫

会長I/O◆大野 宏一

副会長◆福嶋 謙之輔

鈴木 安之

幹事◆清水 恵子

SAA◆矢部 房男

会計◆岡本 久

直前会長◆村松 邦彦

会報委員長◆宝子山 泰久

本日の進行 (12:30)

長島 源氏

(シネマアミーゴ代表)

「(仮) 逗子海岸映画祭
から池子音楽祭まで」

—次回のお知らせ—

9月20日(18:30)

「新世代からの報告」

ボーイスカウト・ガールスカウト・JC

—2724回 例会記録

2018年9月6日—

山本会長の時間



今日は松井会員のご紹介で、横浜国立大学教育学部附属鎌倉小中学校校長の木村昌彦様をお迎えし、「ガッツのある子供を育てる方法」と題してお話伺います。後ほど、よろしくお願ひ致します。

—昨日と昨日は、台風21号が日本列島を縦断し、関西方面から東北・北陸地方に甚大な被害をもたらしました。特に、関西国際空港では滑走路が水浸しになったうえに、空港への橋がタンカーの衝突により破損したことで約5,000名が空港内に足止めされました。

今年は台風が多く発生し、重大な被害が報告されました。また、風も強く吹き、屋根が飛ばされたり、建築現場の足場が倒れたり、高速道路でのトラックの横転や、自転車がプラモデルの車のようにコロコロと転がるなど、台風の怖さを目の当たりにしました。地球の温暖化により、特に日本は亜熱帯地方になったような錯覚を覚えます。天変地異により、想定外の災害が起きております。今朝のニュースでも朝の3時頃に、北海道で震度6強の地震がありました。いつどこで何が起きるかわからない昨今ですが、我々が住んでいる湘南地方、特に逗子は風光明媚なところで、大きな災害も滅多になく、住みよい街で、大変ありがたいと思っております。

話は変わりますが、先週の地区会員増強委員長の松下力さんの卓話の中で、会員増強・維持の成果や結果は偶発的に起こるものではなく、そこには必ず原因があるとお話がありました。9月はビーチバレー大会があり、社会奉仕活動や親睦活動などで、広くロータリーの活動を地域に発信して会員増強につなげたいと考えております。プログラム委員会の桐ヶ谷委員長以下、委員の皆様の素晴らしいゲストの卓話に感謝致します。今後、地域に対しより良くあるクラブを目指していきたいと思ひます。本日の例会への会員の皆様のご出席感謝致します。

財団ニコニコ	横瀬	\$100
	鈴木(安)、北島、桐ヶ谷、菊池	各\$10
米山ニコニコ	鈴木(安)、船津、矢部(光)、矢部(房)、北島、桐ヶ谷、菊池	各1,000円

幹事報告

清水幹事 到着物: ロータリーの友9月号

ガバナー月信9月号

例会変更: ・横須賀北RC 9月29日(月) 12:30~

於: 瀬戸集会所 横浜金沢RCとの合同例会

・鎌倉大船RC 9月6日(木) 18:30~に変更

9月20日(木) 休会

委員会報告 矢部(房)市民祭り実行委員: 10月21日(日)

11時~15時迄、市民祭りが開催されます。詳細は後日お知らせ致しますが、皆様是非ご出席願ひします。

横山会員: 9月30日(日) ビーチボール大会を今年も開催致します。逗子RCからは、岡本(一)会員、中根会員、横山会員が参加予定です。参加希望の方、是非お申し出ください。

9月理事会報告

- ・予算執行状況報告 →承認
- ・8/19(日) 地区IACアクターズミーティング懇親会について報告 →承認
- ・地区大会について…10/13(土) 会長幹事会、10/14(日) 新世代交流会・本会議開催。逗子駅集合とし、電車利用、現地12時迄に到着。打上げは逗子(苅吉)にて行う。 →承認
- ・10/18(木) 18:30 脇洋一郎ガバナー公式訪問について…スケジュール確認、クラブ協議会は約1時間とする。ガバナーへの質問を用意。 →承認
- ・10/21(日) 逗子市民まつりについて矢部実行委員より説明。今回は縮小されるが、例年通り逗子RCのブースはあり。綿菓子を提供する事に決定。 →承認
- ・次次年度会長の選考に関する事前打診会議メンバーの選出の件…投票の結果、鈴木(安)、松井、三宅、石田、藤吉、大野(敬称略)以上6名に決定 →承認
- ・その他…ビーチバレーについてプロ選手への対応について藤吉理事より説明。前日にRC、バレーボール協会、プロ選手の3者で打ち合わせを行う。

【出席報告】 会員数 49名 (出席免除4名)
出席者 30名 出席率 63.82%

卓話「ガッツのある子を育てる」 木村 昌彦氏

プロフィール

- ・生年月日 1958年8月26日(60歳)
- ・出身地 山形県
- ・経歴 筑波大学卒、山梨大学医学部博士課程、医科学博士
- ・現職 横浜国立大学教育学部教授、横浜国立大学附属鎌倉小学校中学校校長
全日本柔道連盟や日本オリンピック委員会の各種委員を務め、バルセロナからリオまで7つのオリンピックにかかわる。2016年リオオリンピック柔道チームリーダー。



スポーツにおいて大舞台になると必ず言われる言葉は「メンタルに弱かった」「気合で負けた」「プレッシャーに負けた」等よく聞く。指導者も選手も必ず口にする言葉である。しかし、勝利を収めたときは精神的な強さを賞賛されるが、負けた時は精神論に頼り過ぎたとかメディアに非難されることが多い。2012年のロンドンオリンピックでは柔道は過去最低の結果を残してしまっただけでなく、当時の篠原監督は「最も充実したチーム」「柔道再生へ向けて篠原の挑戦」などとメディアから囂し立てられていたが、金メダル0個に終わった瞬間に「屈辱的な結末、横行する根性論」「欠けた経験、乏しい連体感」などと一斉にバッシングされた。敗戦の責任を負うのはリーダーの務めであるが精神面(メンタル)は都合の良いように善悪の対象となることが多い。つまり勝てばメンタルトレーニングの効果、負ければ根性論に頼った非科学的な指導になることが多い。

また、よく勘違いされるのは指導者には権力があると思われること。指導者には権力はなく、あるのは影響力である。ここを勘違いしてはならない。組織のリーダー、先生等の全ての指導者は翻訳者だと思っている。「我々は学ぶべきことを止めたときは、教えることを止まなければならない」と思いながら、より良い翻訳者にならなければならない。また、時代によって変えていかなければならない。

しかしながら、これまでの結果や体験的にスポーツ場面においてメンタルの強さが必要な事は認識されている。リオオリンピックを戦った柔道を題材に「メンタルを鍛える」とはどういうことなのかについて根性ではなくガッツ溢れる選手とはなにかについて考える。

ガッツと類似した言葉に根性がある。「根性」とは昭和の時代、特に高度成長期以降(1960年代後半)において「企業戦士」「モーレツ社員」のような粉骨砕身で会社のために働く人達の表現だったと思われる。主体的な気持ちというよりもアスリートの目指す姿、美德が様々な形に刷り込まれていたと思う。つまり義務的感情・強迫観念「must(～しなくてはならない)、never(決して～してはいけない)」の感覚が大勢を占めていた

と感じる。それが時代の変遷で軍事的であるとか受動的であるとの批判的となった。しかしながら、競技において必ず反省の弁に上がるのは「気合が足りなかった」「精神面が弱かった」「執念がなかった」「集中力がなかった」等のメンタルに関する言葉であったと思われる。

人は思っているほど強くない、でも、人は思っているほど弱くもない。大事なものは心の才能。好きなことを続けられる、好きなことを継続して研究できる才能であり、それを伸ばすことが大切である。

人はそれぞれ個人ごとに違った普通のレベルがあり、自身でそれぞれの普通のレベルをあげることが重要である。自ら課題設定し、自ら学び、自らそこに進み、そこから突き抜けた子、これがガッツのある子と考える。

緊張と緊張感という言葉がある。緊張は能力のない人、まだそこまでいっていない人が感じるものであり、緊張感は能力、自信がある人のストレスである。私は緊張感と類似したものを選手の練習で組み入れた。選手生活10年以上の選手能力は、人間力45%、技術30%、忍耐力25%というデータがある。人間力を高めることは大事であり、指導者は自ら判断する材料を与え、それを判断するのは本人自身である。これを習慣化させ、従来の自分と比較し、今の自分を評価し分析する能力を身につければ、負けたとき、失敗したとき、素直になり、こころ一番に最大限の力を出せる人になれる。

リオオリンピックを見ると柔道競技だけでなく多くの競技において10代や20代前半の若い選手が思い切ったパフォーマンスを行った。リオオリンピックでの若者は物怖じせず思い切ったパフォーマンスを演じてくれた。今時の若者は大舞台で大きなパフォーマンスを発揮できる選手が多くいる。この力は現代版の科学的根性論つまりガッツだと思う。ガッツは主体的な目標に向かっていく精神的な強さだけではないだろうか、つまり可能性の追求・達成可能意識「can(～することができる)、possible(～は可能だ)」が大きく働いていると思われる。

担当：岡本一朗

ニコニコBOX 本日合計 ￥39,000 累計 ￥392,000

山本(由)君…日本列島災害が多すぎます。皆様気を付けてお過ごし下さい。
清水(恵)さん…日本列島災害で苦しんでいる。他人事ではない。
鈴木(安)さん…山本会長良くがんばっています。
安藤君…福井旅行は楽しかったです。
船津君…木村さんスピーチよろしく。
矢部(光)君…ロータリー財団マルチプル・フェロー5回目の表彰を頂いて！
橘(武)君、北島君、山本(三)さん…木村さんのスピーチ楽しみです。
松井君、矢部(房)君、山口君、石田君、菊池君、服部君、大野君、岡本(久)君、匂坂君、矢島君…木村昌彦先生スピーチ宜しくお願いします。

湊屋君…木村様よろしくお願ひします。
宝子山君…木村昌彦先生、子供達が遅く育つ教育の話、楽しみです。
草柳君…卓話期待しています。北海道の皆様、災害復旧がんばって下さい。
藤吉君…涼しくなりました。
桐田君…指が治って来たと思ったら風邪引きました。
桐ヶ谷君…9月になりました。夏バテ回復し、頑張ってくださいませ。
横山君…床屋に行きたい。
横瀬君…北海道の地震、心配です。
岡本(一)君…台風のこわさを感じました。